

2007～2008年度
国際ロータリー第2640地区
I.M.第3組

INTERCITY MEETING

I.M.第3組メインテーマ

「奉仕活動クラブ実践報告」

国際ロータリー第2640地区ガバナー 平原 祥 彰
ゼネラルリーダー・P.D.G 亀岡 弘

日時 ● 2007年10月20日(土) 場所 ● 県民文化会館

第1部 事前会議

時間	所要時間	会場	会議名	担当
11:00～12:00	60分	4F	登録受付・昼食	
12:00～13:00	60分	4F 402号室	ロータリー財団部門会議	中島 治一郎(カウンセラー) 岩本 行弘(カウンセラー補佐)
		4F 403号室	米山奨学会部門会議	松下 光春(カウンセラー補佐)
		4F 404号室	ロータリー情報部門会議	上野山 茂樹(アドバイザー補佐) 西尾 幸祐(委員長)
		4F 中会議室	新会員の集い	平原 祥彰(ガバナー) 勝野 露観(ガバナーエレクト)

第2部 本会議

時間	所要時間	会場	会議名	担当
12:10～13:10	60分	2F	登録受付	
13:10～13:40	30分	2F 小ホール	開会・点鐘 君が代・奉仕の理想 斉唱 I.M.委員長 開会の挨拶 ホストクラブ会長挨拶 ガバナー挨拶 ゼネラルリーダー挨拶 ゲスト紹介 参加クラブ出席報告	豊田 耕作 ソングリーダー 野口 榮夫 雑賀 史郎 ホスト会長 平原 祥彰 亀岡 弘 宮本 裕史 小嶋 克己
休憩 -----	10分			
13:50～15:05	75分		奉仕活動実践報告	クラブ 1～5
休憩 -----	15分			
15:20～16:20	60分		奉仕活動実践報告	クラブ 6～9
16:20～16:30	10分		ゼネラルリーダー講評 次回ホストクラブ会長挨拶 閉会・点鐘	亀岡 弘 西 溪 光 照 和歌山西会長

各クラブ発表者氏名

所属クラブ	発表者	テーマ
1.和歌山RC	石井 博	障害者水泳教室 ～立ち上げから第3者委譲まで～
2.和歌山アゼリアRC	松本 良二	「ワンワン基金」について
3.和歌山東RC	前田 成蔵	こばと学園への一年を通しての奉仕活動
4.和歌山城南RC	森 桂子	「こども暗唱大会」について
5.和歌山北RC	中島 延明	姉妹クラブ・東済州RCとの共同奉仕
6.和歌山南RC	田中 章慈	市民公開講座「がん患者学のすすめ」
7.和歌山西RC	中筋 正浩	コンコード・ダイアプロRCとの交換学生プログラムについて
8.和歌山東南RC	早田 充宏	青少年の育成について
9.和歌山中RC	八瀬 善郎	フィリピンにおける大学奨学生プロジェクトについて

地区役員・委員長ご芳名

2640地区 ガバナー	平原 祥彰	粉河RC
IM第3組 ゼネラルリーダー	亀岡 弘	泉南RC
ロータリー財団部門 カウンセラー	中島 治一郎	泉大津RC
同 カウンセラー補佐	岩本 行弘	富田林南RC
地区情報規定委員会 委員長	西尾 幸祐	堺おおいずみRC
米山奨学部門 カウンセラー補佐	松下 光春	泉南RC
2640地区 ガバナー補佐	岩橋 重文	和歌山北RC
同	坂上 悟	和歌山西RC

ガバナーご芳名

パストガバナー (1985-1986)	月山 和男	和歌山南RC
パストガバナー (1988-1989)	平岡 正巳	羽衣RC
パストガバナー (1991-1992)	瀬戸 新一	御坊RC
パストガバナー (1992-1993)	大澤 徳平	堺RC
パストガバナー (1995-1996)	楠 公延	高野山RC
パストガバナー (1997-1998)	堤 啓治	和歌山RC
パストガバナー (2000-2001)	水田 博史	岸和田東RC
パストガバナー (2005-2006)	平尾 寧章	海南東RC
直前ガバナー (2006-2007)	三軒 久義	河内長野東RC
ガバナーノミニ (2009-2010)	村上 有司	田辺RC

目 次

Contents

プログラム	Program	1
IM委員長 開会の挨拶	Opening Address	2
歓迎のご挨拶	Welcome Address	3
ガバナー挨拶	Governor's Address	4
ゼネラルリーダー挨拶	General Leader's Address	5
各クラブ奉仕活動関連資料		
(1) 和歌山ロータリークラブ	RC of Wakayama	6
(2) 和歌山アゼリアロータリークラブ	RC of Wakayama Azalea	7
(3) 和歌山東ロータリークラブ	RC of Wakayama East	8
(4) 和歌山城南ロータリークラブ	RC of Wakayama Jonan	9
(5) 和歌山北ロータリークラブ	RC of Wakayama North	11
(6) 和歌山南ロータリークラブ	RC of Wakayama South	13
(7) 和歌山西ロータリークラブ	RC of Wakayama West	15
(8) 和歌山東南ロータリークラブ	RC of Wakayama South East	18
(9) 和歌山中ロータリークラブ	RC of Wakayama-Naka	20
英語スピーチの日本語訳文：		
奨学生 メリー・クインリンさん・ジュヴィー・ラスさん		21
サンペドロRC フェルディー・ソーザ会長		22
IM 3組和歌山市内9クラブ合同奉仕事業について		23
フィリピン大学奨学生プロジェクト募集要項抜粋		24

●プログラム

Program

1) 第1部 事前会議 12:00~13:00

Part 1: Group Meeting

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| 1. ローターリー財団部門 | Rotary Foundation Meeting |
| 2. 米山奨学会部門 | Yoneyama Memorial Foundation Meeting |
| 3. ローターリー情報部門 | Rotary Information Meeting |
| 4. 新会員の集い | New Members' Meeting |

2) 第2部 本会議 13:10~16:30

「奉仕活動クラブ実践報告」

Part 2 : Presentation “How does your club share with the community ?”

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 点鐘／ホストクラブ会長 | Call to Order : Pres. Shiro Saika |
| 2. 君が代・ロータリーソング | National Anthem of Japan, Rotary Song |
| 3. IM委員長開会の挨拶／和歌山中ロータリークラブ 野口 榮夫 | Opening Address : IM Chairman Hideo Noguchi, RC of Wakayama-Naka |
| 4. ホストクラブ会長挨拶／和歌山中ロータリークラブ 雑賀 史郎 | Welcome Address : Pres. Shiro Saika, RC of Wakayama-Naka |
| 5. ガバナー挨拶／RI第2640地区ガバナー 平原 祥彰 | Governor's Address : Governor Yoshiaki Hirahara, RI District 2640 |
| 6. ゼネラルリーダー挨拶／IM 3組ゼネラルリーダー 亀岡 弘 | General Leader's Address : IM General Leader Hiroshi Kameoka |
| 7. ゲスト紹介 | Introduction of Guests and Visiting Rotarians |
| 8. 参加クラブ出席報告 | Attendance Committee Report |
| 9. 休憩 10分 | Intermission |
| 10. 各クラブ奉仕活動報告 | |
| クラブ 1～5 | Presentation of the first 5 clubs |
| 休憩 15分 | Intermission |
| クラブ 6～9 | Presentation of the clubs 6-9 |
| 11. ゼネラルリーダー講評 | Comments by the General Leader |
| 12. 次回ホストクラブ会長挨拶 | Address : President of the next host club of IM |
| 13. 閉会・点鐘 | Adjournment |

IM委員長 開会の挨拶

和歌山中ロータリークラブ 野口榮夫

皆様今日は。国際ロータリー2640地区第3組のIMを担当させて頂く中RCで御座います。

IM開催につきましては、平原ガバナー・亀岡ゼネラルリーダーを始め、地区パストガバナー・役員、その他多くの方々の御指導を得、また公私共大変お忙しいところ多数の会員の方々に御出席頂き本当に有難う御座います。私達中RC会員一同、心を込めて皆様を歓迎申し上げます。

私達は亀岡ゼネラルリーダーのもと一丸となって準備を進めて参りましたが、端々に至らぬ点、準備不足の点があろうかと存じます。どうか皆様の変わらぬ友情でカバーして頂きたく存じます。

第一部では新会員の集い、R財団、米山奨学、R情報の各部門別に活発な質疑応答が行われたと存じます。第二部メインテーマとしては、「奉仕活動クラブ実践報告」とさせて頂きました。昨今の殺伐とした事件や不正を糾弾するニュースが毎日のように報道されている今だからこそ、「思いやりの心」が求められているのではないのでしょうか。優しい心、励ましの言葉には力があります。相手に生きる勇気を与えるだけでなく、命を救う程の力を発揮致します。奉仕活動を通じての心の通った人間関係を築く事こそがロータリーの「思いやりの心」であり、奉仕活動であると信じます。各クラブの奉仕活動を発表して頂き、実りのあるIMと致したく存じます。宜しく願い申し上げます。

最後になりましたが、本IMの余剰金をもって、私達中RCの奉仕活動を基に和歌山市内9クラブの合同奉仕事業を実施して頂ける事を、大変光栄に存じ、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

本日の集いが皆様にとりましても実り多い事を念願致し、開会の挨拶とさせていただきます。

歓迎のご挨拶

ホスト会長 雑賀 史郎

天高く馬肥ゆの好季、本日はまた休日にもかかわらず多数のご来賓及び第3組ロータリアンの皆様方のご参加頂きましたこと、ホストクラブを代表して衷心より厚くお礼申し上げます。

本日の行事に関する詳細につきましては、野口実行委員長より申し述べたとおりでありまして、ことに余剰予算の第3組合同奉仕事業への用途に関してご理解下さったことに感謝いたしております。

本日のメインテーマ“奉仕活動クラブ実践報告”といたしましたのは個々のクラブの奉仕活動の内容につきましては断片的に仄聞することがありましたが、このように複数クラブが一同に会して、その実践内容を公表することは画期的なことではないかと思っております。

発表された実践内容が今後の各クラブの奉仕活動のために参考ともなり、また自クラブの活動改善に大いに役立つのではないかと考えられます。

本企画が成功裏に終了することを祈念申し上げ、ご挨拶といたします。
ご静聴ありがとうございました。

ガバナー挨拶

国際ロータリー2640地区ガバナー

平原 祥彰

「ロータリーは分かちあいの心」RI会長のテーマの下に数多くのプログラムを実践し、人々と共に夢ある未来を築き上げようと活動されているロータリアン各位に対し、心から敬意を表します。IMは近隣クラブのメンバーが交流して情報を伝達し合い、友情と親睦を深め合うために開催されます。

事前会議では従来の三部門の他に規定・情報の部門を加えていただきました。7月の規定審議会の決定はクラブの運営に大切な情報を含んでおりますので、疑問点は解決してクラブにお帰りいただきたいと思います。

各クラブの奉仕活動の報告につきましては、内容や手法に関心を払い、工夫と努力に大いに学んでいただいて、自らの活動に生かしていただきたいと思います。熱意に溢れた仲間の活動報告をしっかりと聞いてほしいと思います。

このIMが整然とすすめられ真に実りの多いものになりますよう、大いに期待いたしております。ホストをして頂いた和歌山中ロータリークラブの皆様の御努力に対し心からお礼申し上げます。

簡単ですがごあいさつといたします。

ゼネラルリーダー挨拶

IM 3組ゼネラルリーダー 亀岡 弘

「ロータリーは分かちあいの心」をもったIM 3組のロータリアンの皆様、「こんにちは」。

本日はここ和歌山県民文化会館で3組のIntercity Meetingを開催致しましたところ、平原祥彰ガバナー並びにパストガバナー、ガバナー補佐、地区委員長・委員の皆様、そしてIM 3組のロータリアンが、かくも沢山ご出席下さいまして誠に有難うございます。ゼネラルリーダーとして厚くお礼申し上げます。全員最後までご参加頂き、熱き思いを込めて本日のIMを成功させるよう希っております。

本日のIMは、和歌山中ロータリー・クラブ雑賀史郎会長、野口榮夫IM委員長を中心にして、準備を進められ、参加されたロータリアンの皆様方には「素晴らしいIMであった」と異口同音に言って頂けるような企画・構成をされました。

第1部「事前会議の4部門」は、平原ガバナーをはじめパストガバナー並びに地区委員会の皆様方によろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。特に、本年4月に規定審議会が開催されましたのでロータリー情報・規定委員長会議の部門では、多くの問題点、疑問点が指摘されるのではないかと存じております。クラブ運営に重要事項でございますので、しっかりと理解してクラブに持ち帰って頂きたく存じます。

第2部「本会議」は、平原ガバナーのご意向もあり、本年度は地区としてIMのテーマを統一しないので、自由にやって頂ければということでありました。当3組としてはメインテーマを「奉仕活動クラブ実践報告」と題して、9クラブが過去・現今・近未来どのような奉仕活動を“されたのか、されているのか、されるのか”をご報告して頂くことになりました。これら報告を通じて、今後、地域社会、国際社会に大なり、小なりインパクトを与え、わくわくする心から感動する奉仕活動を体験し、温かい心の通った人間関係を構築することが、「Rotary Shares」であると信じてやみません。

また、和歌山中ロータリー・クラブが、WCSとして実施されていますフィリピン・サンペドロRCから会長様ならびに奨学生たちが来られることになっております。温かく歓迎しようではありませんか。

最後になりましたが、皆様方のご協力を得て本IMがスムーズに進行することをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

和歌山障害者水泳教室

—立ち上げから第三者委譲まで—

和歌山ロータリークラブ
石井 博

当和歌山RCは身体障害者及び知的障害者を対象に水泳教室を行っています。2006年3月、和歌山市内の温水プールで第1回が開催され、今年で3年目を迎えます。

対象者は、県立紀伊コスモス養護学校及び知的障害者デイサービス事業所「ランドマーク」の生徒さんを中心に、2006年23名、2007年も23名が参加しています。

当事業は、和歌山RCと紀州水泳愛好会との共同事業です。紀州水泳愛好会のメンバーの多くは、水泳競技で全国大会出場などを経験した選手の集まりですが、和歌山RCが呼びかけた障害者水泳教室のために、2005年11月に組織されました。障害者水泳教室を安全に開催するため、和歌山RCと何回か会合が持たれました。又、選手は指導技術の体験講習にも参加しています。

当日は、生徒1人につき2人の指導員がつき、ロータリーのメンバーは会の運営のサポートや医療スタッフの準備などを行いました。「みんなで楽しく水しぶき！」をスローガンに、水中スポーツに慣れ親しむ機会の少ない障害者にプールでのイベント(水泳教室、レクリエーション)を楽しんでもらい、体力の維持増進、機能回復を図ると共に、社会参加への活力を育むことを目標にしました。紀州水泳愛好会のメンバーは、自らの専門分野である水泳を通じて社会貢献できる喜びを、ロータリーのメンバーは、障害者への理解を深めるとともに、子供達の笑顔と奉仕活動の喜びを感じることができました。

本年度は3年目を迎えますが、将来本事業を第3者に委譲し、新たな奉仕グループを育てることができればと考えています。地域に対する社会貢献とは、直接的な奉仕活動のみならず、新たな奉仕活動グループを見だし、育てることも重要な事業と考えます。



ワンワン基金について

和歌山アゼリアロータリークラブ

ワンワン基金とは、社会福祉法人 日本ライトハウスさんに対し、盲導犬の育成・活動のための奉仕活動です。これは、5年前の5周年記念事業として、始めました。

主な活動として、年一回のJR和歌山駅前での街頭募金活動、例会時に募金箱を回す、日本ライトハウス訪問があげられます。募金活動によって、集まったお金をお渡しする際卓話もお願いし、訪問と合わせて施設、盲導犬への理解も深めています。今年の街頭募金は、当日、雨風の悪天候の中行いましたが、みんなで大きな声をはりあげ、募金を募る皆さんの姿がとても印象的でした。当、アゼリアロータリークラブは、女性が多い事で有名ですが、私の様なだみ声でお願いするより、やはり美しい女性の声でお願いした方が、箱に入る皆様の善意が多くなっている事は間違いありません。悪天候にも係わらず、多くの募金も頂けましたし、私どもも大きな充実感に満たされました。結果、活動を通じてロータリアンの団結を強める事にも、つながっていきますし、実際、街の生の声を聞ける、人々の善意を生で感じる事は、私たちの大きなモチベーションにつながり励みになり、今後の活動にもつながっていきます。この街頭募金は、地元新聞でも告知されますし、「ロータリーって何してるの?」という人が、「ロータリーってこんな事してるんだ!」と、理解をしてもらった声もきいたことがあります。又、「盲導犬を支援したり、ボランティアしたいけど、どこに行っても、何をしたらいいかわからない」という声も聞いた事がありますが、「街頭募金が、きっかけをつくってくれた」などの声も聞こえてきます。又、実際街に出て活動していると、意外な事に若い人や、子供達の善意が多いのには驚きます。これからの世代のこうした意識や考えも、大切にしていかななくてはと感じさせられます。

奉仕の内容の充実・見直しを図る上で、奉仕対象への訪問や意見を聞く事も、重要な活動です。実際施設を訪問してみて、どのような所で、どのように盲導犬が訓練されているのか、奉仕内容の見直しは必要か、そもそも、継続は必要か、など、マンネリにならないように考えなくてはならないと思います。実際、盲導犬1頭育てるのに、約400万円ほどかかることや、訓練を受けた犬が全て、盲導犬になれるとは限らない事実もあります。ストレスで盲導犬の寿命は平均短い事や、盲導犬を手にする人間の教育・研修も施設で2ヶ月ほど必要な事実も、あまり、知られていませんし、それらの費用は実費で負担しなければなりません。街中であまり盲導犬に会う機会がないのは、こうした事実も原因のひとつです。動物が好きだから、かわいいから、人の役に立つ事だから、だけでは奉仕がうまく機能しないでしょうし、こうした事実を皆さんに知っていただく事も重要だと思います。

今後は、こうした事実をふまえつつ、例えば盲導犬を借りる側に立ち、視覚障害者の方々への意識調査や実態調査等も必要かと思われれます。その中で、人と盲導犬の橋渡し等がもっとうまくいけば、盲導犬を連れて街中を歩く姿を目にする機会も増えてくるでしょう。そうなれば、それだけ奉仕活動のやりがいも実感できます。

私どものワンワン基金に限らず、奉仕活動全般を行ううえで、マンネリにならないよう常に考えて、見てみて、相手の側に立った生きた活動をしていきたいと思えます。

和歌山東RCの社会奉仕事業と「こぼと学園」

和歌山東ロータリークラブ
社会奉仕委員会

当クラブの社会奉仕委員会は、青少年の育成に注力し、「多くの会員で汗を流そう」をモットーに活動しています。

「こぼと学園」は市内直川にある児童福祉施設です。

様々な事情により家庭での養護が難しくなった「幼児（2歳）」から「高校生（18歳）」までの子供たちを預かり養育及び支援をしている社会福祉法人です。

当クラブとこの「こぼと学園」との係りは、当クラブ物故会員故中津清さんが個人として毎年12月に「こぼと学園」でお餅つきのご奉仕をしていたのを当クラブの社会奉仕事業として1965年からお手伝いをさせて頂いたのが始まりです。

お餅つきの当日は地域の方々や住友金属の方々と共に我々会員も参加させて頂き子供たちと餅米を蒸かしたり杵を振り上げたりしています、最後に全員で出来たてのお餅を子供たちとおしゃべりをしながら頂きます。

1995年には園児とみかん狩も行いました、当日は参加会員にお願いをし会員の車に園児たちを分乗させ現地に行きます、みかん狩りのあと参加者全員で焼肉パーティーを楽しみます、ゴザの上に行儀良く座り、口いっぱい肉を頬張る子供たちとの語らい、楽しそうなそして明るい笑顔、そのような園児たちを見ているとやって良かったと言う満足感と来年も又やろうと云う意欲もでます、そしてこのみかん狩りも毎年の恒例事業になりました。

10月のみかん狩り、12月のお餅つきが「こぼと学園」に対して行っている和歌山東RC社会奉仕委員会の継続事業です。

「こぼと学園」の子供たちとは、この事業以外にその年度のクラブ委員会活動の中で子供たちに参加して頂ける事業に対して、例えば2640地区R.Y.L.Aへの高学年の子供達と同園の先生方の参加、市内の大清掃への参加、内川への鯉の放流、喜和の郷（老人介護施設）への慰問などに積極的に参加をして頂いています。

「こぼと学園」の夏祭りには、当クラブ会員も参加、特にバザーには当クラブ会員提供品物を数多く出品、当日販売もお手伝いします。



「和歌山市こども暗唱大会」について

和歌山城南ロータリークラブ

1. 大会を企画した背景

1990年代の日本の教育界は「ゆとり教育」が主流をなしていました。わが城南ロータリークラブもその流れに沿って、ボランティア教育、環境教育、国際交流教育、情報教育の4部門で、優れた教育実践を行っている学校を表彰する「新世代“共育”賞」を1996年から2006年まで行ってまいりました。

しかし、21世紀になってから日本の教育界に学力低下という大きな問題が生じました。

わが城南ロータリークラブでは、この問題を教育の現場だけでなく側面から援助できる方法はないか検討した結果、和歌山市教育委員会の御指導を賜わり、現代、国語教育界で注目されている「読み聞かせ」について着目し、昨年度より「和歌山市こども暗唱大会」を開催することになりました。このような催しは、全国的にもほとんど例を見ないものであり、今後の成果が注目されています。

2. 大会の趣旨

先人たちが築き上げてきた詩歌、文学を読むことは、美しい日本語のリズム、人の情感、自然への繊細な感受性などに触れることであり、こどもの美的感性や情緒を培い、豊かな人間性を形成する上で重要なものです。また、読むことを通して得た理解や感動、心のふるえを、自らの音声で表現し、他者の情緒へと働きかけていく経験は、こども個々の豊かな言語世界を構築するための学びになるとともに、人と人との関係のなかで互いの立場や考えを尊重しながら、ことばを通じてつながっていく喜びを体感する場となっていくはずです。

このようなことから、和歌山市の国・公・私立のすべての小中学生を対象に「こども暗唱大会」を開催し、「読む」「話す」「聞く」等のすべての知的活動の基盤をなす国語の力を涵養するとともに、ことばと自らの音声言語によって意志や感情を伝え合うコミュニケーション能力の育成を図るひとつの機会とすると考えました。

また、現代、教育界の大きな問題点となっている「いじめ」や「学級崩壊」についても、情操教育の育成や、相手に話し、相手の話を聞く能力を養いコミュニケーションを育成することにより側面からの力になればと思っています。

これらにより、21世紀を担う新世代の育成に寄与できればと願っています。

3. 第一回大会の結果

第1回大会は2007年2月4日、和歌山市勤労者総合センターで行われました。

出場者は私どもの予想をはるかに上回る66組174人が出場し、会場は立見席までいっぱいとなり来場者で熱気にあふれる大会となりました。

本の一節名文部門、詩歌、群読（グループでの朗読）の3部門に分けて行われ、最優秀賞には「走れメロス」を群読した県立向陽中学校が選ばれました。

小学校1年生の元気なかわいい朗読から中学3年生の見事な朗読まで、来場された保護者を中心とする人々は何度も感動されたものと思います。

審査委員長をしていただいた、和歌山大学の菊川恵三先生からも高い評価をいただき、報道各社からも評価をした報道をいただき、うれしく思っています。

4. 今後の方針

今後も日本の教育界の動向を注視しながら、その時代に応じた対応をせねばならないと思います。

しかし、国語の学力の向上は教育の根幹であり、この課題は時代の変化にかかわらず重要であると思われます。「読む」「話す」「聞く」等はすべての知的活動の基盤であることから、この大会は長期にわたる継続事業として考えたいと思っています。



2006-2007年度 山本会長 挨拶



会場風景



小学生の群読



中学生の群読

クラブ国際奉仕活動について

和歌山北ロータリークラブ

国際奉仕委員会副委員長

中島 延明

姉妹クラブ・東済州RCとの交流と共同奉仕活動

当クラブは、1984年、クラブ創立5周年記念事業として、国際理解と親善を目的に、大韓民国：国際ロータリー第3660地区 東済州ロータリークラブと姉妹締結をし、以来5年毎に締結の更新をして友好関係を続けております。お互いの子弟をホームステイして行う「友情交換プログラム」も実施しました。1987年11月和歌山市と済州市が姉妹都市となった際、我々のお付き合いも一つの契機となったということで、式典に両クラブ会員が招かれ参加しました。

隔年に相互訪問をして親睦を深め、訪問地において、共同で奉仕活動を実施し、両クラブによる世界社会奉仕と位置づけております。予算は毎回1クラブ20万円。*現在、実施総数28回。

〔東済州RC関係〕 14回

済州市の青少年夜間学校への教材・楽器・ストーブ等寄贈。

済州少年院・心身障害者収容施設・福祉施設等への生活必需品寄贈。

又、R.I. 3660地区「地球環境保全活動」として実施された、南韓国の最高峰「漢拏山」のドライブコースや登山道の清掃に参加しました。

〔和歌山北RC関係〕 14回

社会福祉法人「あさも園」・「やつなみ」・養護学校等への施設機材(FAX・椅子・空気清浄機等)。

養護老人ホーム「白菊寮」へは70本の金木犀の並木植樹。和歌山城石垣刻印案内板と車椅子。

和歌山看護学校へ教材用器具、日赤和歌山医療センターに輸液ポンプ機器。

フィリピンギバン診療所へ施設費寄贈。等々・・・

当クラブが社会奉仕活動として、毎年10万円の予算で続けている、和歌山刑務所内に設置している「和歌山北RC文庫」への書籍の充実にも協力して頂き、前年度は共同で、書籍69冊と盆踊り用浴衣100着を寄贈しました。*現在、書籍：約1500冊(外国語書籍含む)・浴衣：350着

本年度は、12月、東済州RCを訪問し、共同奉仕活動を予定しています。

今後W.C.S.プログラムのマッチング・グラントについても両クラブで検討してはという提案もあります。当クラブ、2009年4月、創立30周年を迎えますが、姉妹締結5回目の更新をして、国際親善の一助となるよう益々友好を深めて参りたいと思っております。



2004年4月19日姉妹クラブ締結更新
(和歌山北RC創立25周年記念式典)



東濟州RC訪問：
濟州島空港にて出迎えを受ける



韓国：濟州市
心身障害者収容施設「希望院」生活必需品寄贈
(東濟州RC例会)



和歌山城石垣刻印案内板 (和歌山城公園)



目録	一 婦人盆踊り用浴衣	百着
	二 日本語書籍	六十九冊
右	共同国際奉仕事業としてお贈りいたします	
	平成十九年四月十三日	
	國啓マリー第三六〇地区	
	東濟州ロータリークラブ	
	会長 尹基弘	
	國啓マリー第二四〇地区	
	和歌山北ロータリークラブ	
	会長 山本倫弘	
	和歌山刑務所長	
	武田 豊殿	

2007年4月 和歌山刑務所長に、書籍・浴衣目録贈呈 (和歌山北RC例会)

和歌山南ロータリークラブの2007～2008年度奉仕活動について

和歌山南ロータリークラブ

会長 田中 章 慈

当クラブは、継続事業ならびに単年度事業の両面から、奉仕活動に積極的に取り組んでいる。今回のIM3組では、奉仕理念という見地から、継続事業である少年野球への支援状況、ならびに、今年度予定単独事業である市民公開講の内容について紹介する。

1) 和歌山南ロータリークラブ旗争奪少年野球

和歌山西支部大会支援ならびに安全性の追求

少年野球大会の開催支援は、29年間にわたり継続してきた事業である。

クラブから大会の運営費用を負担するだけでなく、開催式には多くの会員が参列し、閉会式では、優勝旗授与やメダルの授与を会員だけでなく、我がクラブが提唱し支援している開智高校インターアクトクラブの参加を得るなど、会員の自発的な大会への参加が得られている。また時に支部長や大会関係者を例会に招いて卓話の機会も設け、いわば密着型の奉仕活動を行ってきた。

青少年スポーツ活動の支援では、安全面の確保は最重要課題である。

つい最近高校野球名門のPL学園において、練習中に内野手の玉回しで起こった死亡事故は本当に心の痛むニュースであった。近年スポーツにおける事故のメカニズムが明らかにされるようになり、野球やサッカーにおいて、ボールが強く胸に当たることで心臓震盪が惹起され死に至る場合が実際に起こったわけであるが、一方これらの事故は予防可能でもあった。

本来楽しく健全に行われるべきスポーツにおいて、特に体の発達段階にある青少年において、スポーツ実施時の安全性確保は我々ロータリアンの役目であると考えられた。

そこで今年度、ご逝去されたチャーターメンバーを偲ぶ会で得られた浄財を利用させていただき、スポーツ用品メーカー美津濃より、衝撃緩衝材を用いた胸部保護プロテクターを200個購入し、西支部の各チームに配布したのである。試合だけでなく日頃の練習時からの着用を推奨指導している。

胸部プロテクターのこのような組織的な使用事例は国内でもまだないようで、今後広く普及してゆくことが望まれる事業となった。

継続事業においても、常にニーズをくみ取って対応してゆくことが大切ではないかと考えられた事例である。

2】和歌山南ロータリークラブ創立47周年記念市民公開講座

－ 癌を生きる － 癌患者学のすすめ － の開催

癌という診断が下されたとき、人は思い悩み、死が迫り来る恐怖を覚える。

それが早期癌で100%助かるといわれても、心の隅に一抹の不安が残されるものである。癌の診断と治療における技術的な進歩、効果的な薬物の登場、薬剤使用方法の改善、副作用対策の向上などにより確実に治癒を得たものや、癌を抱えながらも通常の生活を送る人々も多数みられるようになってきた。癌療養におけるQOLの向上も著しく、今や癌と共に生きる時代になったといえる。

医療提供側からみると癌治療における安全性とその効果は着実に高まっている。一方患者側の医療に対する信頼感は、医療提供者が思うほどの高まりはなく、今なお無益な療法にすぎる患者に遭遇することも希ではない。

「医療を施す」「治療を受ける」という言葉が示すように、患者は受け身である。医療情報とは医療を提供する側のものであり、患者－受療側は医療提供側から一方的に与えられる情報がすべてである。インフォームドコンセント（説明と同意）に基づいて患者が自分の状況を正しく把握し、様々な治療法を理解した上で最適な治療法を選択できるか疑問が残るところである。また、医療を受ける側が間違っただ権利意識を振りかざし、医療現場に混乱を招いている場合も少なくはない。正しく適切な治療を受ける権利はあるものの、その方策を会得できている患者はきわめて少ない。我が国では、治療を施す側に医学はあっても受療側に患者学というもの確立されていない。

今回、和歌山南ロータリークラブ創立47周年記念事業の一環として、癌に罹患し、癌を克服した医師を招聘し、「癌を生きる－癌患者学のすすめ」と題したシンポジウム形式の市民公開講座を来年4月26日県民文化会館小ホールにて開催することとなった。

肺癌、胃癌、肝臓癌、大腸癌、食道癌や悪性リンパ腫などの癌患者として、手術に耐えあるいは苦しい抗癌剤化学療法を経験し、ようやく社会復帰を果たし、現在和歌山市民の身近なところで医療の第1線に立って様々な患者に接している医師の方々から、ご自身の経験を元に、癌に対する見方、治療に対する考え方など、癌療養に際して患者としてのあり方を方っていただくことは、癌に悩む患者や、癌患者を支える家族にとって、多いなる救いと、有意義なヒントをもたらすものと確信される。

今回のシンポジストは、癌を経験した医師でありかつロータリアンであるが、このような情報提供を行うこともこれもロータリアンとしての努めであるという認識のもとにご協力頂けることになったのである。

現時点では実施予定のものであり、主旨説明であることを了解下さい。

以上二つの我がクラブの奉仕事業について紹介させていただきます。

コンコードダイアブロRCと和歌山西RCの交換学生プログラムについて

和歌山西ロータリークラブ

【経 緯】

1980年（昭和55年6月4日）にコンコードダイアブロRCと和歌山西RCは、姉妹ロータリークラブとして提携しました。同年の夏にお互いのクラブから交換学生の行事を行い、現在に至っております。

○コンコードダイアブロ ロータリークラブについて

Concord-Diablo Rotary Club（RI第5160地区、アメリカ合衆国 カリフォルニア州）

【きっかけ】

当クラブの井上潤二会員のご友人からコンコードダイアブロRCの中下静夫様のご紹介を受け親交が深まり1980年6月、当事の会長であった井上潤二会員と国際奉仕委員長の利光義道そして谷口実・稲野純一元会員が渡米し、姉妹クラブの締結式を行ったことが「交換学生」のきっかけとなりました。

【交換学生の一覧表】

2007年8月現在までの交換学生の人数

アメリカからの交換学生 26名 1989・2002年は交換学生はありません。

日本からの交換学生 26名 2002・2003年は交換学生がありません。

年度	コンコードダイアブロRC	和歌山西RC	年度	コンコードダイアブロRC	和歌山西RC
1980-81	Mary Crauford	利光 伸彦	1994-95	Robert Nishimori	島田 垂以子
1981-82	Mary Milatos	田島 照子	1995-96	Amanda Silvester	小 阪 翼
1982-83	Kathy Simpson	古谷 彰子	1996-97	Christina Crane	田上 雅敏
1983-84	Blythe Sarchett	植田 恵理	1997-98	Jeremy Willer	平岡 雅史
1984-85	Petek Rank	堤 基善	1998-99	Erin Morris	澤本 大輔
1985-86	Gena Baldwin	稲田 桂子	1999-00	Laura Daniel	井上 かおり
1986-87	Nicki Milatos	森下 淳子	2000-01	Alissa McFall	中村 加奈
1987-88	Jennifer Silvester	藤田 順子	2001-02	Jackie Beach	中谷 公美子
1988-89	Douglas Ostler	柿木 一宏	2002-03	-	-
1989-90	-	島田 大介	2003-04	David Wentling	-
1990-91	Kevin Melissare	中 林 望	2004-05	Mark Azevedo	前島 恵理
1991-92	Jonathan Silvester	多賀井 里衣	2005-06	Amanda Wentling	稲葉 優子
1992-93	Chad Vermillion	山家 祐美	2006-07	Justin Stewart	中筋 郁美
1993-94	Michael Jackson	西溪 光寛	2007-08	Elizabeth Wentling	中筋 望

2007.8 現在

【活動内容】

だいたい7月後半から8月にかけて、交換学生を受け入れています。

受け入れ期間は、当初約1ヶ月ありましたが、現在は約2週から3週間程度となります。来日の際のお迎え、滞在先の確保、観光、歓迎会などを計画し、日本での滞在を歓迎しています。

また、コンコードダイアブロRCへの連絡と各ホームステイでの家族との交流を図っています。

【27年間でのエピソード】

- * 来日して2日目に、アメリカの友人がお亡くなりになったということで、急遽帰国した学生が居ます。
- * アメリカに滞在していて、英語が上手く話せなくて、外出が出来なかったことがあります。
- * 連絡の行き違いで到着日が違っていたことがあります。
- * アメリカでは感謝をスキンシップで求めますので、抱きつかれると思わず逃げ腰になったこともあります。
- * ステイ先のお孫さんが、歓迎のために唄を歌って歓迎されたことにとっても感激していました。
- * 以前交換学生で来日した学生が結婚して、クリスマスカードに家族の写真を送ってくださいます。
- * 阪神・淡路大震災の時は、交換学生だった方々からクラブへ安否を気遣うお手紙が来ました。
- * サンアントニオ国際大会の途中、コンコードダイアブロRCへ会員・家族10名が訪問し、例会に出席の上、歓迎パーティーにご招待を受けました。
- * ステイファミリーと共に、3週間かけて全米の1/3を旅行してきました。

上記に記載した以外にも、各ステイ先の家族や友人達との心の交流が沢山あるとお聞きしています。

2007年8月9日～8月23日まで滞在しました Elizabeth Wentling さんのことについて

日付	ステイ内容	ステイ先
8月9日	来日お迎え 関西国際空港へお迎え	中筋
10日	大阪海遊館へ、昨年渡米した中筋郁美と那賀高生2名が同行	
11日	京都観光（金閣寺・清水寺）	
12日 13日	高野山に一泊（大円寺） 護摩山ドライブ	竿本
14日 15日	岡山県一泊（姫路城・倉敷を観光）	中筋
16日	旅の疲れを癒し、ホームステイ先に移動	中筋/西溪
17日	映画鑑賞	西溪
18日	加太海岸で海水浴	
19日	大阪の心斎橋へ観光 ホームステイ先に移動	西溪/利光
20日	桃山町乾歴史資料館にて、十二単を体験・撮影	利光
21日	住友金属工場見学・和歌山城・ポルトヨーロッパ観光	利光/中筋
22日	帰国前の荷造りと、休憩と少しのショッピング	中筋
23日	帰国（関西国際空港）	

【留意点】

ステイ先で混乱や行き違いが無いように最近は申し送りを行います。

(申し送りは、下記のようなチェックポイントを主とし、なるべく主観の入らない内容です。)

【チェックポイント】

- 1、食事の好き嫌い。苦手な食べ物や嗜好品の有無を必ず記載して報告しています。
- 2、観光、ショッピングなどに出かけた先や食事内容なども記載して、滞在の内容がダブらないようにします。
- 3、生活面で、気がついたことを報告します。
- 4、普段の会話などで、気がついたことも口頭にて伝えます。

【ステイ先が心掛ける内容】

*生活習慣が違いますので、本人ができるだけストレスを感じないようにします。

(例) シャワーは朝起きてから浴びる習慣が多いです。

食べる時間を決めるというより、お腹が減ると食べるというスタイルです。

和式トイレの使用は難しいですから外出先では注意が必要です。またウォシュレットはアメリカでは珍しいようなので使いづらいようです。

日本人の感覚で話すよりも、Yse・Noでの回答を求めたほうが理解しやすいようです。

*長期の滞在となるので、精神・体調管理などへの配慮を行います。

(例) 蒸し暑い日が続きますので、エアコンなどの設備は必要です。

本人の予定がその日にならないと解らないと不安になるので、前もって伝えます。

英語を話す機会が少なくなるので、洋画を観たり、英語を話せる人と同行します。

【コンコードダイアブロRCへの日本学生のホームステイの状況】

今年和歌山西RCから渡米した交換学生は、8月22日から9月13日(23日間)まで滞在しました。

サンフランシスコ市内、ヨセミテ国立公園、水族館の観光や地元大学訪問、映画やマジックショー、コンコードダイアブロRCの例会への出席、アイスクリームパーティーなどで歓迎していただきました。

【まとめ】

- 毎年の交換学生については、会員数の減少や家庭事情、年齢的なことがステイ先に負担をかけますが、アメリカの交換学生を受け入れることで、それぞれの国の考え方や生活習慣の違いを体感できます。しかも、学生を通して和歌山や関西の良さを再発見できます。
- 英語が出来ることより楽しいでしょうが、一緒に過ごしているとだんだんお互いの表情や雰囲気だけでほとんど理解できるようになるのは、とても素晴らしい体験です。
- ロータリアンがお互いの学生を交換しているということで、信頼感と安心感は絶対的なものです。このことは、両クラブの連帯感が自然に生まれ、RCのメンバーであることの誇りを感じることが出来ます。
- 最近はインターネットの環境が整いアメリカと日本での連絡が簡単になり、ステイ先の状況等を報告する上でとても便利になっていますので、RCメンバー同士の交流も深まる可能性があります。

青少年の育成について

和歌山東南ロータリークラブ

東南育英会奨学金

東南育英会の歩みは昭和47年(創立の翌年)に社会奉仕委員会の発案で、和歌山東南地区中学校に在学する生徒を対象に、家庭の事情により高校に進学出来ない生徒に対して奨学金援助を行い、社会有用の人材を育成することを目的に発足しました。奨学生1名につき月額3,000円を援助し、財源は特別会計(ニコニコ箱)を利用すると当時の書類に残っています。現在は安定的財源を確保する目的で、会員一人当たり年間1万円を寄付頂いております。その後、奨学生も中学生→高校生へ(5名)と移り変わり奨学金も月額3,000円→10,000円へと変わってきました。

フィリピン サンイシドロデイケアセンター・ママティドデイケアセンター

○創立30周年記念事業として、和歌山中RC姉妹クラブのフィリピン・サンペドロRCの協力を得てカブヤオRCの紹介を受け、ダニイ・バティエノ初代会長、理事・役員の話し合いで、サンイシドロ地区に3歳～5歳の子供達を対象としたデイケアセンターを寄贈いたしました。以後は毎年クリスマスに子供達にプレゼントを贈り近況報告を頂いています。



○創立35周年記念事業としてフィリピンカブヤオRCと提携して2棟目のデイケアセンターをカブヤオ市ママティドに寄贈。2006年3月19日に竣工・引渡し式を行いました。以後はサンイシドロデイケアセンターと同じくクリスマスにプレゼントを贈り、近況報告を頂いています。



○創立15周年記念事業として和歌山市軟式野球連盟学童部東支部に優勝旗を寄贈。以後、和歌山東南RC旗争奪野球大会として今期23回目の大会となります。これまでに芝刈り機やテントを寄贈。毎年大会毎に、A級・B級・C級にボール、トロフィー、優勝カップ寄贈。子供達の野球育成の支援を行っております。



カンボジア・アンコール小児病院支援

当クラブの姉妹クラブ、台北東南RCなど7RCとの共同事業。アンコール小児病院は、運営はアメリカのNGOですが、代表は写真家の井津建郎、現地運営実務者は赤尾和美さん(41歳・看護師)、院長はカナダ人、副院長はアメリカ人です。子供達の診療と同時に看護師の養成にも力を入れており、このたび看護師養成指定病院としてカンボジアから認定されました。そのため早急に看護学校校舎建設及びそれに伴う備品の購入をしなければならないが資金不足のため、プロジェクトチームをつくり援助を決定。2006年度から毎年115,000円を5カ年継続支援します。



旭学園の子供達との交流

2歳～高校生までの子供達80名と当クラブ郷間会員の農園にてみかん狩りを楽しんだ後、四季の郷にて豚汁、お弁当を頂きビンゴゲームで楽しみました。また旭学園生徒5名と紀州技研工業(釜中会員)の工場見学と和歌山マリーナ(太田会員)にてモーターボート体験を行い、大変喜んでおりました。《旭学園園長よりお礼の手紙抜粋》さて、先日は園児たちの為に心温まるご招待をいただきまして誠にありがとうございました。世界が狭くなりがちな学園の子供たちにとって、普段できないような沢山の経験をさせて頂きました。当日、子供たちは帰園後もなかなか興奮がさめなかったようで、学んだ事や体験した事を他児らへ得意げに話し回っておりました。



残留孤児・家族を励ます会



中国残留孤児家族の皆様の手料理を囲み、残留孤児杉野さんの激動の人生と未知なる「祖国」での皆様のご苦勞を少しでも労うことができ、また出席者に「中国残留孤児」への新たな認識と理解をいただけたことと思います。

盲目のピアニスト・許哲誠君ピアノリサイタル

姉妹クラブの台北東南RCが支援しています盲目の台湾青年、許哲誠君は先天的視覚障害を持って生まれたが、天才的な音楽才能を持っており彼の将来に期待して支援をされています。当クラブもリサイタルを開き入場料を支援金として贈呈いたしました。リサイタルには多くの皆様にご来場を頂き、素晴らしい演奏を聴かせてもらいました。



[1] 和歌山中RCの奉仕活動に対する考え方

1. 基本的な考え方

2. 会員が望ましいと考えている奉仕活動

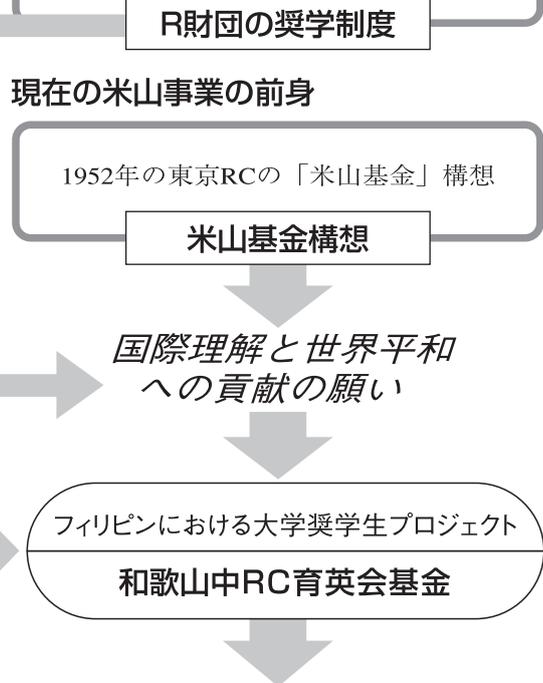
1. 会員のみならず会員家族も奉仕の現場を体験し、相手の人達と心の交流が出来るような奉仕活動。
2. 出来れば若い世代の教育のお役に立てるようなプロジェクト
3. その他、会員が個人ボランティアとして取り組んでいる奉仕活動への協力

ロータリー財団の発足

1. 1917年アトランタ国際大会で第6代RIクラブ会長が「慈善・教育事業への基金設立」を提唱。カンザスRCの\$26.5の寄付からスタートした。
2. 1928年、寄付額が\$5,000となった時点で「ロータリー財団」の名称となり、1930年に最初の寄付としてロータリアンが設立した「障害児童の会」へ\$500を贈った。
3. そして「最初の財団プログラム」として1947年から「奨学生制度」がスタートした。(1965年からGSE、マッチンググラントが、1984年からポリオプラスがスタートしている。)

[2] 和歌山中RCの奉仕活動の4本柱

1. 1985年～「和歌山刑務所受刑者矯正・教育活動の支援」堀の中に入って春のひな祭り、夏の盆踊り、秋の運動会に参加。4名の会員及び夫人も個人ボランティア活動。累計支援260万円。
2. 1989年～「国際ボランティア組織KNOWの会の在和外国人への情報提供及び相互交流活動への支援」当クラブ会員が会長として、同会を運営。累計支援460万円
3. 1990年～「フィリピン サンペドロ市におけるWCSデイケアセンター保育園プロジェクト」(約80～100名の児童に教育・給食を提供。教員は市職員) これまでに6ヶ所のセンターを建設。累計支援550万円。
4. 1996年～「和歌山中RC育英会基金」
 - ・当初、和歌山市及び近郊在住の外国人留学生を支援。月3万円×1年間。累計17名、612万円
 - ・2006年以降「フィリピンにおける大学奨学生プロジェクト」を推進



[3] フィリピンにおける大学奨学生プロジェクトの概要

<p>1. 2005/6～2009/3 2名</p> <p>パオロ・カターリャ君 1988・10・3生 マニラ市 ファティマ大学 看護学科</p> 	<p>姉妹クラブ フィリピン3820地区 サンペドロRC</p> <p>エリクソン・アミオン君 1989・1・31生 マニラ市 セントロ・エスコラー大学 心理学科</p> 	<p>2. 2006/6～2010/3 1名</p> <p>メリー・クウィンリンさん 1989・8・1生 マニラ市 ライセウム・フィリピン大学 ホテル/レストラン経営学科</p> 	<p>3. 2007/6～2011/3 1名</p> <p>ジュビー・ラスさん 1991・3・17生 マニラ市 サンファン大学 会計学科</p> 
---	---	--	--

キューヤブ デイケアセンター

マグサイサイ デイケアセンター

奨学生メリー・クインリンさん 英語スピーチ内容

皆様こんにちは。きょうこうして皆様にお会いする機会を与えて頂いた事を皆様一人ひとりに感謝申し上げます。

私はメリー・クインリン・マルコと申します。現在18歳で、両親であるアウグストとエリザベスの4人の子供の末っ子です。私は昨年和歌山中ロータリークラブとサンペドロロータリークラブの奨学生として選ばれましたが、この為の筆記試験や面接はとても大変でした。とうてい結果は無理だろうと思っていました。けれども、神様の思し召しにより選んで頂いたのです。ロータリアンの皆様は私に勉学を続ける機会を与えて下さいました。

私は今、マニラ市のライセウム・フィリピン大学のホテル・レストラン経営学科2年生です。ホテル・レストラン経営学科は私の性格に向いていると思われた事、また一番興味をもっている分野なので選びました。この学科を卒業する事によって、フィリピン内外での職業の可能性が広がる事と胸をふくらませています。

もしこの世に天使というものが存在するのなら、そして実際神様は天使を遣わされましたが、それは私にとっては和歌山中ロータリークラブとサンペドロロータリークラブの会員の皆様のことです。私の家庭は経済的には日常生活にも困窮するような状態でしたので、4年制大学での勉学は見果てぬ夢でした。それが皆様のお蔭で夢を実現する事が出来、そして今、より良い将来に向けて勉学を続行中です。今後も勉学にベストを尽くす事を誓います。

本日もご出席のロータリアンの皆様、本当に、本当に有難うございました。

奨学生ジュヴィー・ラスさん 英語スピーチ内容

皆様こんにちは。私はジュヴィー・ラス・ガティレスと申します。4人兄弟の一番下で、現在16歳です。父は個人のお宅の専属ドライバーとして働いています。また兄は技能学校で冷蔵・空調メカニクの勉強をしています。そして私は和歌山中ロータリークラブとサンペドロロータリークラブによる4年制大学奨学生の一人として、マニラ市のサンファン・ド・レトラン大学にてフレッシュマンとして会計学を専攻しています。

ロータリーの大学奨学生選抜の試験は本当にタフでした。学科の実力をチェックする為の筆記試験もタフでしたし、またサンペドロロータリークラブ奨学生委員会の3名の委員の方による面接もタフでした。

私は会計学を勉強し、身に付けることにより、世の中のお役に立ちたいと思っています。会計事務所や官・民を問わずいろいろな可能性があると思います。いずれにせよ、大学ではいままで知らなかった、何か新しい分野に取り組み、そして新しい環境に一步踏み出したいと考え会計学を選びました。

今、私は勉学に集中出来る事を心から感謝しています。皆様が私の授業料や交通費等を負担して下さいます。この、人生二度とない機会（once-in-a-lifetime opportunity）を恵んで下さった神様と和歌山中ロータリークラブ、サンペドロロータリークラブの皆様にご心から感謝申し上げます。必ずベストを尽くし、資格を取得します。そして家族を助けます。

有難うございました。

サンペドロ会長の挨拶

サンペドロ・ロータリークラブ会長
フェルディー・ソーサ

雑賀史郎会長はじめ和歌山中ロータリークラブの皆様、そして和歌山市内8クラブの皆様、今日は。本日のIMのテーマとして「それぞれのクラブがどのように世の中に対するSHARINGを果たしているのか」というテーマを選ばれた事は大変適切であると存じます。本日のテーマはまさにRIテーマの“ROTARY SHARES”が求めている、それぞれのクラブのリーダーシップの発揮、という考えに相通じていると思います。

私達サンペドロロータリークラブも地域の恵まれない人達に深く関与し、いくつかの奉仕活動を通じて地域社会に貢献しています。ささやかかも知れませんが努力を継続する事で私達なりのSHARINGを果たそうとしているのです。

1. 義務教育卒業生の内、貧困家庭子弟に対し職業訓練を提供
2. 市内貧困地域2ヶ所でクリーンウォータープロジェクトを実施、井戸と114,000リットルのタンクを設置
3. 移動自転車ショップの営業による資金作り及び貧困家庭への支援
4. 貧困地域への救急車の提供
5. 台風等の被災地への支援
6. 貧困地域におけるポリオプラスチックの投与、および医療・歯科コンサルティング
(毎月第二日曜日)
7. 警察署への白バイの寄贈

そして私達の最も大切な2つのプロジェクトが、デイケアセンタープロジェクトと大学奨学生プロジェクトであります。デイケアセンタープロジェクトは和歌山中RCと市内8RCの全面的なご支援により実現しました。現在6ヶ所のセンターに於いて貧困家庭の就学前児童388名に対し教育及び給食サービスを提供しています。また大学奨学生プロジェクトにより現在4名のデイケアセンター卒業生が4年制大学で勉学しています。本日その内の2名がご招待を頂き出席しております。

この場をお借りし、和歌山中ロータリークラブ、和歌山ロータリークラブ、和歌山東ロータリークラブ、和歌山南ロータリークラブ、和歌山北ロータリークラブ、和歌山西ロータリークラブ、和歌山城南ロータリークラブ、和歌山東南ロータリークラブ、そして和歌山アゼリアロータリークラブの皆様にご公式に且つ心から御礼を申し上げます。とりわけ1977年のバゴン・シラング デイケアセンター、2000年のエルビンダヴィレッジ デイケアセンター、2001年のサンロケ デイケアセンター建設に際しては市内9クラブの皆様の絶大なご協力を賜りました。そして今回、この大会を通じて2008年から2011年の5人目となる大学奨学生を市内9クラブの皆様にご支援頂くというお話を伺っております。本当に有難うございます。皆様お一人お一人に心から御礼申し上げ、私の奉仕活動報告並びに御礼のご挨拶といたします。

IM3組 和歌山市内9クラブ 合同奉仕事業について

標記の件、既に会長幹事会のご了承を頂いておりますが、改めて各クラブ会員の皆様に事業の概要をご報告申し上げます。就きましては各位のご理解と今後のご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

1. 経緯

- (1) 2007年4月2日 ゼネラルリーダーとの打ち合わせ
IM開催に当たっては会場費等出来るだけ質素に運営し、且つ皆様からの会費を出るだけ有効に使わせて頂きたい旨をご相談。余剰金を以ってIM3組9クラブの合同奉仕事業の原資とする事につき、ご賛同を頂く。
- (2) 6月2日 (於 東急イン) 新旧合同会長幹事会
9クラブの合同事業として、国際奉仕活動事業
「フィリピンにおける大学奨学生プロジェクト」に協力する事をご了承頂く。

2. プロジェクト概要および今後の進め方

- (1) フィリピン人高校生を一名選抜し、2008年6月より4年間、マニラ市の4年制大学における勉学を支援する。
- (2) 選抜対象：和歌山中ロータリークラブとフィリピンのサンペドロ・ロータリークラブのWCSプロジェクトによる、デイケアセンター保育園卒園生で、且つ経済的に恵まれない家庭の子弟を対象とする。
- (3) 今後の進め方：サンペドロ・ロータリークラブ奨学生委員会にて募集を行い、中RC・家族・市内9クラブ代表が現地を訪問し、2008年2月までに選考試験を完了させる。
(2008年6月入学)

3. 必要費用および予算措置

- (1) 必要費用：4年間の授業料・寮費・交通費等、合計 \$ 10,000- (約120万円)
- (2) 予算措置：IM 余剰金 9月時点見直し 約80万円
IM 当日のボックス寄付 未定
和歌山中ロータリークラブ国際奉仕予算 ~約40万円

4. 特記事項

本プロジェクト「和歌山市内9クラブ合同 フィリピン大学奨学生プロジェクト」は単なる単独の奨学生プロジェクトではなく、WCSプロジェクトのデータベースでも取り上げられていたデイケアセンター保育園プロジェクト(1990年度WCSプロジェクトNo.3349)による卒園生の中から、優秀だが経済的に恵まれず通常なら決して大学教育は受けられないという学生に、より広い人生の可能性を提供するという点が要と考えています。従って直接我々の奉仕活動の対象となる奨学生のみならず、奨学生が卒業したデイケアセンター保育園の現在の園児や家族そしてコミュニティーの人達に大きな夢を与えているところが他の奨学生プロジェクトと比較してもユニークで価値のあるところではないでしょうか。

和歌山市内9ロータリークラブ合同 フィリピン大学奨学生プロジェクト 募集要項抜粋

A. 応募資格

和歌山中ロータリークラブとサンペドロロータリークラブによるロータリー世界社会奉仕“デイケアセンタープロジェクト”にて建設された6つのデイケアセンター（キュヤブ、マダサイサイ、バゴンシラング、エルヴィンダヴィレッジ、サンロケ、サンヴィセンテ）の卒園生で且つ大学進学時点で高等学校卒業証書を有する者。

B. 必要提出書類

1. 出生証明書
2. 無犯罪証明書
3. 証明用カラー写真 2枚
4. 高校卒業証明書
5. 両親の所得証明書

C. 対象学部

1. エンジニアリング・建築
2. 経営・経済
3. コンピューターサイエンス
4. 電子工学
5. 看護
6. 教育
7. 医療技術
8. 理学療法

D. 奨学金対象項目

授業料、教科書・参考書代、寮費または交通費、その他奨学生プロジェクト委員会にて検討し決定した項目。

E. 奨学金支給条件

1. 未履修または不合格科目がないこと、且つ総合で平均点以上を取得すること。これを満たさない場合は、奨学金を中断または中止する
2. 奨学生は毎学期終了後、成績証明書および報告書をサンペドロロータリークラブ奨学生プロジェクト委員会へ提出すること。
3. 授業料等はサンペドロロータリークラブの大学奨学金口座から大学に直接送金する。
4. 次の場合は奨学金を即時中止とする。
停学・退学の場合、転部・大学変更の場合（理由を問わず）、その他勉学続行不能となった場合

奉仕の理想

奉仕の理想に 集いし友よ
御国に捧げん 我らの業
望むは世界の久遠の平和
めぐる歯車 いや輝きて
永久に栄よ 我等のロータリー ロータリー

参加クラブ

国際ロータリー第2640地区 I.M. 第3組

- 和歌山 RC
〒640-8156 和歌山市七番丁26-1 ダイワロイネットホテル和歌山2F TEL 432-1681
- 和歌山アゼリア RC
〒640-8246 和歌山市雑賀屋52 南方ビル2F TEL 435-3470
- 和歌山東 RC
〒640-8142 和歌山市三番町6 関西電電ビル5F TEL 432-5260
- 和歌山城南 RC
〒640-8227 和歌山市西汀丁26 和歌山県経済センター2F TEL 423-1615
- 和歌山北 RC
〒640-8142 和歌山市三番町6 関西電電ビル5F TEL 432-4343
- 和歌山南 RC
〒640-8227 和歌山市西汀丁26 和歌山県経済センター2F TEL 423-9031
- 和歌山西 RC
〒640-8156 和歌山市七番丁26-1 ダイワロイネットホテル和歌山2F TEL 432-1654
- 和歌山東南 RC
〒640-8227 和歌山市西汀丁26 和歌山県経済センター7F TEL 423-3666
- 和歌山中 RC
〒640-8227 和歌山市西汀丁26 和歌山県経済センター7F TEL 423-3555

ホストクラブ／和歌山中ロータリークラブ

わかやま
wakayama

新報

SHIMPO

10月24日
水曜日

2007年(平成19年)第18450号
(日曜・祝日・休日翌日休刊)

発行所 株式会社和歌山新報社

〒640-8043 和歌山市福町49番 和歌山中橋ビル4階

電話(073)433-6111(代表) <編集部> 電話(073)433-6114

FAX(073)433-5440 FAX(073)433-9320

URL <http://www13.ocn.ne.jp/~shimpo/> <営業部> 電話(073)433-6113

Eメール shimpo@titan.ocn.ne.jp FAX(073)433-8111

郵便振替口座 00920-0-318834番 <販売部> 電話(073)433-6112

<わかやま新報販売所>

和歌山市(紀の川以南) 電話(073)474-7288

上記以外の地域 電話(073)433-6112 本社販売部

月ごめ購読料 1800円(1部売り80円)

比国の大学奨学生事業等

和歌山市内9RCが奉仕活動発表

和歌山市内の9つの
ロータリークラブ(R
C)が集って情報交換
する「奉仕活動クラブ
実践報告会」が20日、
和歌山市の具民文化会
館で開かれ、障害者水
泳教室やフィリピンで
の大学奨学生推進など
各クラブが取り組んで
いる奉仕活動を発表し
た。

市内9RCは毎年1
回、情報交換する大会
を開いているが、こと
しは「各クラブがどの
よきな活動を通して地
域あるいは世界に役立
て、フィリピンの姉妹
クラブと提携し、おと
としから同プロジェクト
を推進していること
を詳しく説明した。

同クラブは、この報
告会を機にマニラ市の
大学に通う女子奨学生
2人を招待。ライセウ
ム・フィリピン大学ホ
テル・レストラン経営
学科2年のメリー・ク

インリンさんは、「こる」。サンファン・つけ、世の中のお役に
の学科を卒業すれば、ド・レトラン大学で会
フィリピン内外での職 計学を専攻するジュヴ
業の可能性が広がるこ ー・ラスさんは「会
とに胸を膨らませてい 計学をしっかりと身に
びた。

域あるいは世界に役立
て、フィリピンの姉妹
クラブと提携し、おと
としから同プロジェクト
を推進していること
を詳しく説明した。

読賣新聞

発行所
読賣新聞大阪本社
第19661号

〒530-8551
大阪市北区野崎町5-9
電話 (06) 6361-1111 (代)
<http://www.yomiuri.co.jp/>

2007年(平成19年) 10月21日 日曜日

ロータリークラブが活動報告

和歌山比の奨学生招かれ謝辞

和歌山市内にある9のロータリークラブ(RC)が「奉仕活動クラブ実践報告」を開いた。それが20日、和歌山市の県民文化

支援助事業、海外での学生支援事業などについて説明し、「今後も『思いやりの心』で奉仕活動を続けよう」と申し合わせた。

和歌山アゼリアRCによる盲導犬の育成募金事業や、和歌山RCによる障害者水泳教室の事業などが紹介された。

和歌山中RCは、フィリピンでの大学奨学生プロジェクトについて説明した。同RCは、1990年からフィリピンに6か所の教育施設「ディケアセンター保育園」を建設。昨年からは、

同園の卒園生の中で、貧困のために大学に進学できない子どもを「奨学生」として、授業料や寮費などを支援する取り組みを始めた。

この日は、奨学生の中から、マニラ市の4年制大学に通うメリー・クウィンリ

50th 創業 50年
<http://www.ito-home.co.jp>

イトー 家
HOME の家
0120-25-1124

和歌山市小松原5丁目6番3号 イトー第1ビル
和歌山県宅建協会会員知事免(1)3448号 和歌山県知事許可(般-16)第15025号

ンさん(18)とジュビー・ラスさん(16)が招待された。壇上上がった2人は「生活にも困るような状態だったので、大学での勉強は果てぬ夢。皆さんのおかげで実現することができました」と感謝の言葉を述べた。



感謝の言葉を述べる
ジュビー・ラスさん